

〒384-0006 小諸市与良町 6-5-5

TEL.0267-31-0250 (代)

FAX.0267-31-0140

http://www.pref.nagano.lg.jp/

toshinkyoy/index.html

平成 30 年(2018 年)11 月 26 日(月)発行 No.7

東信教育事務所だより「響」

連載「響く声」

「S-P 表」って、 いろんなことが分かる！

—No.7 の内容—

◆連載「響く声」
「S-P 表訪問より」

◆特集「教育課程研究協議会
の授業から」
小学校 理科
中学校 社会

◆連載「初任研」
教師力向上研修Ⅱ

◆舎窓から

◆県歌「信濃の国」
制定 50 周年⑤

◆生涯教育課より



カルフくん

S-P 表訪問では、先生方と貴重な意見交換をさせていただきました。「こんなことが分かる」「こんな見方もできる」など、話題に上がった S-P 表のよさをお伝えします。



P 曲線（赤）は、実線（本校）と点線（全国）を表しているんだ。この線の位置関係を見ると、本校の強みと弱みが一目で分かる。数字だけでは見えないことが見えて、とても分かりやすいな。

難しい問題で正解しても、比較的易しい問題で間違えているのは、どういうことだろう？不注意かもしれないし、その領域が苦手だという可能性もあるわ。確かめてみたい。



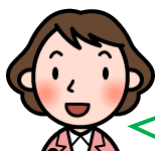
この問題は、「99（類型に当てはまらない回答）」が 10 人もいる。まったく分かっていない子が多いってことだから、もう一度、授業で扱っておきたいな。

先生方と一緒に考えることで、S-P 表の見方が広がったよね。

A 問題では全問正解している子が、B 問題ではクラスの間あたりに位置していることが分かったわ。活用の力を高める学習を、さらにしていった方がいいわ。



S-P 表の成果が表れている部分から、子どもたちに有効な指導方法が分かり、他の学習に生かせそうです。



キルシェさん

特集

「教育課程
研究協議会の
授業から」
小学校 理科
中学校 社会

どうやって調べるのか、実験方法を自分たちで考えたんだね。



理科・小学校6年・水よう液の性質

A 小学校

「炭酸水から出てくる気体は何だろうか」

「酸素か二酸化炭素ではないか」と予想したこのグループは、意見を出し合い、確かめる実験方法を3つ考えました。

- 考えた実験方法
- ・マッチの火を入れる。
 - ・石灰水を入れる。
 - ・気体検知管を使う。



これまでの学習から「マッチを入れると二酸化炭素ならすぐに消える。酸素なら激しく燃えるだろう。」と実験結果を考え、見通しをもって実験を行いました。



「3つの実験結果から、炭酸水から出てくる気体は確かに二酸化炭素だ。」

3つの実験結果から「気体は確かに二酸化炭素だ」と結論付ける姿がありました。既習の知識を活用し、自分の力で解決していく主体的な学びが見られた授業でした。

社会科・2年・身近な地域調査

B 中学校

【単元を貫く問い】「いつまでも住みやすいB町にするためには、どのようなことを町に伝えればよいのか」

自然、福祉施設、移住者増加など、7つのグループが、意見を交流しました。

新たな視点や考えの共通性に気づくなどして追究を深め、より具体化された提案書へと仕上げていきました。

後日、役場へ出向き、町長の前で、みんなで考えた提案を伝えたそうよ。



「その考え、いいね！」

↑
仲間の意見を参考に



「文化と特産を伝えたい」

単元を貫く問いを意識した、地元の未来について考え合う授業でした。

※写真は加工してあります

連載
「初任者研修」
教師力
向上研修Ⅲ



意見が絡み合う
討議になっているね！

一人の取組が
他の初任者に
広がってる！
素敵な姿ね。



「つながり、振り返り、深まる」
初任研となりました！



問い方を工夫したテスト作りに
挑戦中(S先生)

質問の仕方をかえたり、理由を聞いたりすると、生徒が答えられなくなる。それが今の課題なんだ。

グループ討議

だから最近では、まず班の中で、自分の言葉でアウトプットする機会を増やすようにしているんだ。

テストも、理由を問う「記述式」にしたいと思ってる。採点基準が難しいけど、頑張ってみて、生徒の説明する力につなげたいんだ。

答えられても、それがいつも同じ子ばかりだったりするよね。

よく考えて、自分の言葉で説明するって大切だよ。そういったところが、学調のB問題にもつながるよね。

同じグループH中H先生の感想

「S先生が、学調のB問題のような、記述式のテスト作りに取り組んでいました。自分も、生徒が応用力を身につけられる工夫をしていきたいです。」

連載
「舎窓から」
「う～ん。
いいじゃないか」

私の初任校の校長先生は、普段は多くを語らず、陰から私たちを支えてくださる先生でした。

初任地の A 市では、初任者研修のまとめとして1年間を振り返った文集を作成していました。締め切り間際。私は写真を多用し生徒の生活記録文や感想を書き込んで原稿を提出しました。若い私は、この文集の原稿をなんとかして早く書き終わらせたいと考えていたのでした。

あたりが薄暗くなり帰ろうとしたときです。校長室へ来るように研究室に内線がありました。「なんだろう？」と校長室へ入ると、その雰囲気からすぐに、これはまずいと感じました。目の前には、先ほどの原稿があります。校長先生が口を開きました。「1年間、この学校で何を学んできたんだ」私はただただ「しまった」と思うのみ。校長先生は、言葉を続けます。「子どもから何を学んだんだ」「もう一度」

私は研究室にもどり、原稿に目を落としました。でも、すぐに書き直すことはできませんでした。「子どもから何を学んだのか」が書けなかったのです。校長先生の言葉が頭から離れません。校長先生は、何を言わんとしていたのか考えました。考えたすえ、一つ一つ、生徒の書いた文章から、この子は何を思っていたのかを考えました。

……あたりは真っ暗になりました。書き上げた私は「最終施錠者か……」と思いながら暗い職員室へ行きました。すると校長室に明かりがまだついていたのです。私はおそろおそろ校長先生に書き直した原稿を見せました。「う～ん、いいじゃないか」と笑顔で一言。「さあ、帰るぞ」その日は校長先生と学校を出ました。冬の寒い月夜でしたが、なんだか温かい気持ちで帰りました。

今でも時々、あの日のことを思い出します。そして、校長先生の言わんとしていたことは何だったのかと自分に問い直すのです。

文責：久保 貴史

特集
県歌「信濃の国」
制定50周年⑤



「信濃の国」について新聞にまとめてみた友達もいます。親しんでくれて、とてもうれしいです。次回は、最後の六番の意味を紹介します。

作成…長野県教育委員会教学指導課・企画振興部広報県民課

県歌「信濃の国」制定50周年⑤

「信濃の国」が県の歌である県歌に決まってから、今年でちょうど50年！今回は五番です。長野県の偉人を紹介しています。義仲は、平安時代の武将で、木曾で育った人物です。他の人物も、どんな人が調べてみましょう。

〈五番〉
旭將軍義仲も
仁科の五郎信盛も
春台太宰先生も
象山佐久間先生も
皆此国の人にして
文武の誉たぐいなく
山と聳えて世に仰ぎ
川と流れて名は尽す

〈意味〉
旭將軍とよばれた木曾義仲も、仁科五郎信盛も、
太宰春台先生も、佐久間象山先生も、
みんな長野県にゆかりのある人で、学問、武芸にとってもすぐれていました。
その偉人の名譽は山のように高く、世の中の人が見上げています。川の流れるように、その名声は永遠に忘れられることはないでしょう。



松代の象山神社前の佐久間象山像

■信濃の国4K映像の貸し出しをしています

長野県広報県民課では、「信濃の国」に歌われている風景や偉人等、長野県の魅力を高精細映像（4K）により歌とともに広く発信する映像作品の貸し出しを行っています。

例えば…

- イベントで→映像に合わせてみんなで歌ったり、待ち時間に流したり♪
- 授業で→長野県の地理や産業、歴史を学ぶときの参考にしたり

貸し出しを希望される場合は、
長野県庁広報県民課 電話 026-235-7110、メール koho@pref.nagano.lg.jp までご連絡ください。

■「信濃の国」に関連した作品を紹介します



【長野県歌信濃の国入り扇子】

県歌制定50周年を記念し、天龍村はぐるま会が製作しました。表に6番までの歌詞、裏には県花の“りんどう”が描かれています。県庁1階県民ホールにも展示しています。

* 学年だより等でこのまま紹介することも可能です。

【学校支援コーディネーター研修会】が開催されます

社会教育

学校支援コーディネーター研修会が以下の要領で開催されます。詳細は11月上旬に送信してあります。要項を参照し、お申し込みください。

- ◆日時◆ 平成30年12月18日(火) 13:50～16:40 (受付13:30～)
- ◆場所◆ 東信教育事務所 講堂 (小諸市与良町6-5-5)
- ◆日程◆

13:30	13:50	14:00	15:20	15:30	16:20	16:30	16:40
受付	開会	全体研修		休憩	意見交換会	まとめの会	閉会

- ◆対象◆ 各校の学校支援コーディネーター・市町村教育委員会担当者・学校運営委員(ボランティア代表、学校代表者、地域関係者等)
※地域学校協働活動に関心のある方が参加いただいても構いません。

◆内容◆

- (1)全体研修
 - 地域と学校の連携・協働における国・県の動向(15分)
 - ① 井口 淳さん(長野県教育委員会事務局文化財・生涯学習課 指導主事)
 - 事例発表者(それぞれ発表 20分・質疑応答 5分)
 - ① 元吉 純子さん(野沢小学校学校支援コーディネーター)
 - ② 伴 美佐子さん(上田市教育委員会生涯学習・文化財課 主事)
 - 全体研修に関わって質疑応答(15分)
- (2)意見交換会・まとめの会
 - 小グループによる意見交換
 - まとめの会 ・小グループ代表者から一言ずつ

社会人権教育

佐久地区(10/25)・上小地区(10/30) 人権教育市町村ネットワーク会議が開催されました。

各校の人権教育主任と、市町村の人権教育や人権政策の担当者が集まり、市町村の方針説明や各学校からの要望などの意見交換を行いました。

中学校区に分かれて、義務教育9年間で扱われる人権課題の現状についても話し合いました。

参加者からは次のような感想をいただきました。

- 村内の情報共有ができ、非常に参考になりました。様々な要望も聞いていただき、ありがとうございました。
- 中学校区で情報交換できてよかった。解放子ども会の扱い、部落差別の学習など、小中連携して計画を立て、実践していく必要性を感じました。

今後も中学校区での連携を大切にしていきたいと思えます。

生涯スポーツ

東信地区スポーツ指導者連携会議が開催されました。

〈参加者の感想より〉

- 「中学生期のスポーツ活動指針」や「部活動指導員任用事業」について理解することができました。実践も聞くことができありがとうございました。
- お話を聞き、大会の在り方、中体連の規定が検討されている事がわかりました。「競技力向上」や「スポーツの窓口を広げる」などのニーズに対応し、中学校と地域やクラブチームの連携で、より良いスポーツ環境が整えられていくと良いです。

今後、市町村単位で関係者の連携を深め、子ども達のスポーツ環境をより充実していくことが期待されます。

